

歯科専だより

東北文教大学と山形歯科専門学校との 連携協定を締結

平成29年12月25日(月)午前11時より東北文教大学において、東北文教大学と山形歯科専門学校の相互交流の推進に向けた連携協定を結んだ。

東北文教大学から鬼武一夫学長始め、須賀一好副学長、大桃伸一人間科学部学部長、花屋道子同学部子ども教育学科長、佐藤晃短期大学部学部長、橋本美香同学部人間福祉学科長、笹原正好事務長、遠藤法子事務次長、山本幾子学務部次長の総勢9名、山形歯科専門学校から大貫英一校長、奥山博和副校長、鈴木淳事務長、結城泉教務主任の4名の立会いの下連携協定締結式が執り行われた。

笹原事務長の進行で始まり、両校の出席者が紹介された。

代表者挨拶として、大貫校長は「平成29年7月21日に東北文教大学において、同短期大学部の人間福祉学科2学年、子ども学科2学年、本校歯科衛生士科3学年が一堂に集い、それぞれの専門的な知識や技術をお互いに教え合い、理解し学び合った交流事業を行った。その時の学生の生き生きとした瞳の輝きが印象的であった。社会が複雑化し、単一の専門職だけでは解決できない問題もある。多職種連携を学生のうちに経験できることは大事である。これからも交流事業を継続し幅広い分野での連携を一層推進するために連携協定を締結する事は大きな意義がある。」と述べた。

一方、鬼武学長は「平成28年4月に起きた熊本地震による住民の避難生活において高齢者の免疫低下と口腔の細菌による感染が原因で誤嚥性肺炎を引き起こすことから介護福祉士と歯科衛生士の重要な関連性を知った。さらに7月に両校の学生が、専門領域を超えて交流授業を行い、教え合い学び合うという課題解決に繋げるアクティブ・ラーニングの実践の場となったことがこの協定のきっかけとなった。」と述べた。

続いて、鬼武学長と大貫校長はそれぞれの協定書に署名を行い、和やかな中、しっかりと握手を交わし写真撮影が行われた。

大学と専門学校が連携協定を締結することは全国的にも珍しく、このことは社会的に見ても誇らしく、教職員及び学生の交流・研修に双方がそれぞれの資源を活用しさらに進めていきたい。



鬼武学長の挨拶

(山形歯科専門学校事務長 鈴木 淳 記)

山形県歯科医師会立山形歯科専門学校と学校法人富澤学園東北文科大学との連携協定書

山形県歯科医師会立山形歯科専門学校と学校法人富澤学園東北文科大学（東北文科大学短期大学部を含む）とは、相互の交流の推進と協力のため、連携協定（以下「協定」という。）を締結する。

（目的）

本協定は、相互の教育交流に関し、双方がそれぞれの資源を活用し、連携・協力することを目的とする。

（連携事項）

- 1) 教育交流の推進に関する事項
- 2) 教職員及び学生の交流・研修に関する事項
- 3) その他、双方が必要と認めた事項

（協定に関わる組織）

本協定の実施については、それぞれの担当部署を通じて相互に連携・協力を図り、連携事項を円滑に推進するものとする。

（情報の保護）

本協定に基づく連携・協力に当たり、事前に相手方の同意を得た情報以外の情報を第三者に対して開示又は漏えいしてはならない。

（有効期間）

本協定の有効期間は、締結の日から3年間とする。ただし、いずれか一方が期間満了の3カ月前までに、書面により効力の停止もしくは終了の意思を申し出ない場合は、本協定は自動的に更新されるものとする。

（その他）

本協定に定めのない事項、または、本協定に疑義が生じた場合は、双方が協議し決定するものとする。

平成29年12月25日

山形歯科専門学校
校長

東北文科大学
学長

大貫英一 鬼武一夫



連携協定を結び握手を交わす鬼武一夫学長（左）と大貫英一校長
山形市・東北文科大学

互いの専門学び合い

東北文科大学、山形歯科専門学校連携協定を締結
山形市の東北文科大学（鬼門学校（大貫英一校長）は歯科専門学校、25日、相互交流の推進に向け、

「協定に基づき、学生や教員の交流、研修を進める。保育士、介護福祉士、歯科衛生士を目指すそれぞれの学生が互いの分野を教え合う交流授業を7月に行っており、こうした活動を通じて連携を強める。」
同日で締結式を行い、鬼武学長と大貫校長が協定書にサインを交わした。あいさつで、大貫校長は交流授業に触れ「社会が複雑化し、単一の専門職だけでは解決

できない問題もある。他職種連携を学生のうちに経験できることは大事だ」と語った。鬼武学長も「学生が教え合い、課題解決につながるアクティブラーニングの場になったと振り返り、「学生の成長、教職員の交流をさらに進めていく」と述べた。

山形新聞 2017.12.26



鬼武学長（左）と大貫校長（右）



本校から4名が出席した